



観光・交流による賑わいのあるまちづくり

石岡市長
谷島 洋司氏

筑波銀行石岡支店長
井坂 謙司

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県石岡市です。筑波銀行石岡支店長 井坂謙司が石岡市長 谷島洋司氏にお話を伺いました。

豊富な資源を活かした観光地づくり

豊富な観光資源

本市の大きな特徴として、観光資源が豊富なことが挙げられます。2021年4月にリニューアルオープンした「いばらきフラワーパーク」とその隣に整備した「花やさと山」（表紙と裏表紙で紹介）は、体験型・通年型・滞在型観光の拠点となっています。また市内には、スカイスportsやトレイルラン、サイクリングなどのスポーツのほか、キャンプや釣り、果物狩り、農業体験など、アウトドア・アクティビティが充実しており、ウィズコロナでも楽しむことができます。

また、この地域は、奈良・平安時代には常陸国の国府（現在でいうところの県庁）であったことから、本市には数多くの史跡や有形文化財が存在しています。さらに本市は、昭和初期の看板建築や里山と調和した茅葺民家など、歴史的・文化的に価値の高い景観を現在でも色濃く残す貴重な地域でもあります。

これらに加えて、本市は、古くから酒や醤油、味噌の醸造が盛んであったほか、質の高い肉や米、

多様な野菜と果物が生産されている食材の宝庫であり、「しし鍋」や「やさとそば」といった都会ではなかなか味わえない郷土料理に舌鼓をうつこともできます。

このように、観光資源が充実している本市では、訪れた方がそれぞれ自分の趣向に合わせた観光を楽しむことができます。

ネットワーク構築による観光地化

私は、これほど多種多様な観光資源をもった地域はそうそうないと思っています。しかし、それが故に、関係する行政組織や民間団体の数も多く、情報やサービスの連携が難しい状況となっています。この状況を改善し、来訪者のニーズに合わせた観光メニューの提供や、本市の魅力や旬の情報発信などを行うことができれば、東京近郊に位置する本市は、何度訪れても楽しめる観光地に成長できると考えています。

そこで、現在、市の商工観光課に事務局がある本市の観光協会を法人化して民間人財を登用したうえで、各団体とのネットワーク構築、戦略的な観光地づくりを進めていきたいと考えています。

スカイスポーツ(パラグライダー)



茅葺民家(大場家住宅)



ぶどう狩り(観光果樹園)



常陸國總社宮



JR石岡駅周辺地区の活性化

常陸国の国府であった本市は、周辺地域で作られた米や大豆が集まってきたことにより、味噌や醤油、酒の醸造業がいくつも生まれ、商業のまちとして発展してきました。しかし、時代の流れとともに、消費者の買い物行動はまちの商店街からロードサイドの大型店へと移っていき、さらにインターネット通販の普及なども加わって、小売業や卸売業などは、これまでの営業手法だけでは事業継続が困難になっています。そのため本市の中心市街地では、廃業による空き店舗が増加し、人口減少による空き家の増加も続いています。

こうした状況を打開し、もう一度賑わいを取り戻すためには、観光や交流を中心とした視点に変えて商売を考え直す必要があります。幸いなことに、本市の中心市街地にはJR常磐線の駅があり、関東三大祭りの一つとして知名度の高い「石岡のおまつり」では、毎年多くの人々が訪れています。また、近年では、昭和初期の面影を残す街並みや史跡、神社・仏閣などを散策する方も増えてきています。

看板建築



こうした中、本市は、石岡駅を中心とした賑わいの創出を目的に、西口駅前の交流施設や東口駅前の都市公園の整備など、ハード面の整備を進めるとともに、中心市街地エリアへの音楽ホールや図書館等の機能を持った複合文化施設の建設検討を行っています。

ソフト面では、2021年から地元商店街振興組合が主催、市が後援という共働のスタイルで、本市の特産品等を中心とした飲食・物販、キッチンカーの参加に加え、ステージイベントも行うマルシェ「いしおか市場」を隔月で開催しています。今後も引き続き関係者と連携し、駅前の賑わいを定着させていきたいと考えています。

このように、本市は、ソフト・ハード両面からの取組で、駅周辺地区における市内外の方々の交流を促し、リピーターを増やしていくことで、レトロな店舗で商売をしてみたいと考える若者などを増やす流れを作りたいと考えています。インターネットとリアルな交流を組み合わせた商売などは、趣深いこのまちに合っていると思います。

石岡のおまつり



しっかり儲かる農業づくり

本市の農業は、後継者不足が大きな課題となっています。市では、市内での就農相談のほか、本市に移住し、独立営農を目指す新規就農希望者の育成などに取り組んでおり、成果も上げていますが、それだけでは離農や高齢化に追いつかない状況です。

本市の農産物は、畜産、稲作、野菜、果樹と多岐にわたり、皇室へ献上している富有柿など高品質なものが生産されています。しかし、小規模な農家が大半を占め、栽培から収穫、販売までを一手に担う仕事が大変なうえ、収益性も低い傾向があり、それが後継者不足の要因になっていると考えられます。

このようなことから、本市は市内の農家が作業負担を減らしながらも、しっかりと儲かる仕組みを作るため、本市のブランド「石岡セレクト」（次頁で紹介）への選定や菓子店等と連携した6次産業化による付加価値の向上、東京圏等の富裕層への販売ルート開拓などに取り組んでいます。

また本市は、年間を通して様々な種類の果物が生産できる地域であり、観光果樹園や農産物直売所には多くの観光客が訪れています。しかし、各果樹園の混雑状況や直売所の出荷状況などについては、個別にお問い合わせいただくしかない状況であり、そういった情報をまとめてお伝えできれば、観光客も安心して訪問することができ、農家の売上も安定すると思います。

そこで今後は、JAや各果樹園、直売所などと連携したうえで、タイムリーな情報の収集と発信に取り組んでいきたいと考えています。

地元の魅力を学ぶ「ふるさと学習」

石岡市民も含め、茨城県民は地元の魅力を知らない方が多いと感じています。

全国ネットのテレビでは、全国的に有名な観光名所や特産品などが放送されても、茨城県内のことはあまり放送されないなど、地元のことを知る機会が少なく、多くの方が自分の住んでいる地域の魅力に気付かないまま育ってしまいます。そのため、本市を含めて県内には素晴らしいものがたくさんあるにもかかわらず、おすすめを聞かれても、ぱっと思い浮かべることができません。

私は、地元の魅力を知り、愛着を持ち、さらにそれを自分の子どもや他人に伝えていける人を増やすためには、子どもの頃から自分の住む地域の良さや魅力を知る機会をつくるのが大切だと考えています。

そのため、私は県議会議員や市長になる前、本市の教育委員であった頃から「ふるさと学習」は重要なものであると認識しておりました。ふるさと学習は、2016年度に始めた石岡市独自のカリキュラムで、「石岡を愛し、石岡に誇りを持ち、地域のために活動できる人材の育成を目的に、小学校1年生から中学校3年生までの9年間、石岡について学び、これからどのようなまちにしたいかを考える郷土学習」として、学年ごとに学ぶ内容や目標を設定しています。

まちの民話や歴史・文化を学ぶことから始まり、中学生にはまちの現状や課題を把握してもらったうえで、まちの将来について考えてもらいます。この学習の成果は、年1回、「ふるさと学習サミット」として、一般市民の前で発表してもらっています。

今後は、観光協会や学校などとの連携により、農業や林業、トレイルラン、スカイスportsなど、地元ならではの体験、観光メニューも、ふるさと学習に加えていきたいと考えています。

魅力向上による選ばれるまちづくり

この度、2022年度から2031年度までの10年を計画期間とする「石岡市総合計画」を策定、公表しました。総合計画は、本市のまちづくりの方向性を示す最も基本的な計画ですが、計画策定段階において、多くの市民の皆様からも、本市の地域資源の中には様々な魅力があるという意見が寄せられました。そこで、政策の一番初めに「輝く『魅力向上』」分野として、「情報発信」と「歴史・観光」を掲げました。

まちの魅力を市民や事業者などとの共働・連携によって活用し、創出し、発信していくことで本市の魅力を高め、関わってみたい、訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたいと感じ、選ばれるまちづくりを目指します。

筑波銀行に期待すること

まずは現在、このコロナ禍で本当に困っている事業者に寄り添っていただきたいと思います。

本市は古くから商業のまちとして栄えてきましたが、現在は、商売の形が変わってきています。そのため、今後はEコマース（電子商取引）の導入や、観光と農商工の連携などへのIoT、AIの活用など、新しい技術の導入が必要になります。そういったことへの支援を含めて、市内の事業発展を支えていただきたいと思います。

（取材日：2022年3月9日）



わがまちのブランド戦略 -石岡市-

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取組などを紹介しています。

「石岡セレクト」 認証品のご紹介

石岡市では、地域経済の活性化と市の魅力発信を目的として、市内で生産または製造された特産物や土産品、伝統工芸品などの中から、①信頼性、②商品価値、③地域貢献を基準として、特に優れた商品を「石岡セレクト」として認証しています。認証された商品は、「石岡セレクト」認証品としてロゴマークを付けて販売することができます。ここでは、第2回（令和3年度）の認証品をご紹介します。

「石岡セレクトロゴマーク」は、2021年度の「いばらきデザインセレクション」において「選定」を受賞しました！



【石岡セレクトロゴマーク】

「いばらきデザインセレクション」は、茨城県の地域や産業を元気にする優れたデザインの選定を通じて、茨城県の地域イメージを高め、産業振興につなげていくことを目的に、2005年より始まった取組です。石岡セレクトロゴマークは、「パッケージ・グラフィック部門」で「選定」を受賞しました。

【紫峰煌(しほうのきらめき)】 石岡ブランド柿部会

筑波山麓の豊かな自然で育まれた煌めく柿という意味が込められた皇室献上富有柿。パッケージのカラーには筑波山の別名「紫峰」のイメージカラーを連想する紫を採用しています。柿の選果にもこだわり、色や形、へたの形状等、皇室献上富有柿と同等の選果基準を設けています。



販売：産地直送通販JAタウン（時期限定）
価格：8,300円（税込）

【生搾り えごま油】

八郷えごまの会

石岡市八郷地区で栽培されたえごまを100%使用し、生搾りで生産したえごま油。農薬、薬品等は使用せず栽培したえごま種実を、加熱せずに圧縮搾油したものを使用しています。



販売：Yasato de トレタ マーケット
やさと温泉ゆりの郷内直売所
価格：1本 1,900円（税込）

【金色だしそば 河津庵】

有限会社河津商店

削り節専門店が作った天然出汁を使用した即席セット。化学調味料を使わず、厳選した素材を使用しています。最近の“時短食”“ファストフード”を意識しつつも、天然出汁つゆでしっかり旨みを感じてもらえる商品です。



販売：河津商店店頭およびホームページ
価格：5食 3,782円（税込）
2食 1,296円（税込）

【オーストリッチカレー】 常南グリーンシステム株式会社

ダチョウ王国のダチョウ肉を材料としたカレー。みじん切りにした玉ねぎを、じっくり飴色になるまで炒めて、味に深みと甘さを出しています。ルーも厳選して、ダチョウ肉に合うものを使用しています。ダチョウ肉は、スジ肉を時間をかけて煮込んであり、ホロホロとほぐれるような柔らかさになっています。



販売：ダチョウ王国
価格：540円（税込）

【ダチョウソーセージ】 常南グリーンシステム株式会社

ダチョウ王国のダチョウ肉の旨みがぎゅっと詰まった粗挽きソーセージ。ダチョウ王国では、ダチョウの飼育から屠鳥・加工まで一貫経営しており、広大な牧場で育ち、成長ホルモン剤などは使用しておらず、安心してお召し上がりいただけます。



販売：ダチョウ王国
価格：756円（税込）

【やさとの雫ドロップ】

石岡市八郷商工会

石岡市産の果樹を使った富有柿・福来みかん・いちご・ブルーベリー・梨の5種類のドロップ。日持ちがして年齢問わず好まれ、1缶400円とお手ごろな価格です。



販売：まち蔵藍、まちかど情報センター
Rose Farm Market
やさと温泉ゆりの郷
JAやさと柿岡・園部直売所
価格：400円（税込）

【冷やしやきいも】

株式会社サシノベルテ

石岡市で伐採された檜のおがくずを使って熟成された茨城県産の紅はるかを使った冷やしやきいも。食物繊維たっぷり食べ応えがあり、皮をむく手間がないので、袋を開けてからすぐに食べることができます。パッケージはSBワークス石岡に通所している利用者の方がデザインしています。



販売：SBワークス直営所、大地のめぐみ
Yasato de トレタ マーケット
価格：350円（税込）

詳しくは、石岡市のホームページをご確認ください